

第6回庄川水系流域委員会 議事要旨

開催日時：令和7年8月19日（火） 10：00～12：00

場 所：富山河川国道事務所 3F 大会議室

議事次第：

1. 開会
2. 挨拶（富山河川国道事務所長）
3. 出席者の紹介
4. 設立趣旨、規約
5. 委員長の選出
6. 議事
 - (1) 流域委員会の進め方
 - (2) 庄川水系河川整備計画の点検
 - (3) 今後の予定
7. 閉会

議事結果：

設立趣旨、規約

- ・了承された。

委員長の選出

- ・手計委員が委員長に互選された。

議事

(1) 流域委員会の進め方

- ・委員からの意見なし。

(2) 庄川水系河川整備計画の点検

【委員】 p.2

「霞堤の維持・保全」の記載があるが、具体的にはどのようなことをしているのか。

【事務局】

「霞堤の維持・保全」の取組として、通常の堤防と同様に、除草や出水期前の堤防点検といった日常の維持・管理を実施している。

【委員】 p.7

新たな急流河川対策箇所として抽出した12.0k地点の戸出徳市地区は、現行の河川整備計画で急流河川対策箇所を決定した方法と同じ方法で決定したのか。滞筋の状況などの河道特性の変化を考慮する必要はないのか。

【事務局】

戸出徳市地区は、現行の河川整備計画の設定方法と同じ方法で安全度評価を実施して決定している。

滞筋の変化や河道特性の変化については、適宜測量等で河道の状況を確認し点検しているところであるが、今回新たに戸出徳市地区が追加された要因は、洪水による侵食が発生したことで安全度評価が低くなったためである。

【委員】

令和7年8月7日の大雨は、庄川ではどの程度の規模だったのか。

【事務局】

庄川においては、令和7年8月7日の出水は、水防団待機水位などの基準水位に全く到達しない水位であった。

【委員】

令和6年能登半島地震による河川施設等の機能低下を踏まえて、地震等のハザードが河川に与える影響について見直すことはないのか。

【事務局】

令和6年能登半島地震が起きた際には、堤防点検により、被災箇所として紹介した箇所以外に機能が低下している箇所がないことを確認している。

今後津波などの想定が見直され、それが示された際には、河川管理者として対応が必要な箇所を適宜判断し、見直しを行っていく。

【委員】 P.12

和田川合流点処理について、整備の順番が最後になっている理由と令和13年以降に実施される整備内容に教えていただきたい。

【事務局】

治水事業については、下流に負荷をかけないように、下流から順次整備していくことが基本である。庄川においては、和田川合流点より下流に、架替が必要な橋梁があり、当該箇所の橋梁架替と、堤防整備が優先であると考えている。

整備内容については、和田川の特性を踏まえ、支川管理者である富山県と最適な整備方法を検討しているところである。

また、現在実施している利賀ダム建設により、和田川合流点部の庄川本川の水位を低くすることが可能となり、和田川の安全性に寄与すると考えている。これに加えて、ワンコイン浸水センサーなどのソフト的な対策も進めているところである。

【委員】 P.34

河川整備計画策定以降、渇水流量が正常流量を上回っているとのことだが、河川整備計画の策定と正常流量の確保は関連性があるのか。

【事務局】

河川整備計画策定以降、正常流量を満足していることについて、具体的な関連性は確認できていないというのが実状である。

【委員】 P.38

流域治水プロジェクトの農業用水路整備、洪水調整池としてのため池利用、水田貯留を進めていくにあたって、農業者に対してメリットがあれば、農業者としても非常に取り組みやすいと思う。

【事務局】

流域治水協議会で、その様な話をしていきたいと考えている。

【委員】 P.15

利賀ダムの事業経緯のなかで、事業費が増加した理由を教えてください。

【事務局】

物価変動、地質調査等による設計の見直し等に加え、平成5年の事業着手時点から年月を経て、近年の気候変動による影響も考慮したダムの有効活用のための施設の追加等により、事業費を見直し、増加している。

【委員】 P.29

急流河川対策とは本来、安全度評価をどこまで向上させることを目標にしているのか。

【事務局】

今後洪水が起こった場合に、河川管理施設が危険になるため、次の洪水に向けて現状よりも安全度を向上させたいと考えている。

【委員】

気候変動を踏まえた計画の見直しに関して、方向性や、対策の充実化の見通しがあればご教示いただきたい。

【事務局】

気候変動については、これから検討していかなければならない状況で、現時点でお示しできるものはない。

一般的に雨量が1.1倍、流量が1.2倍まで大きくなると言われているが、過去の雨量データ等を改めて整理し検討していきたいと考えている。

＜いただいたご意見＞

【委員】

高齢化が進行しているため、地域の個別避難計画の推進や福祉施設の方々への防災教育を積極的に実施していただきたい。

【委員】 P.33

1時間降水量30mmと50mm以上の発生回数の整理をしているが、今回の資料だけでは気候変動によって災害が激甚化していると言えないように思う。

【委員】

防災の観点はよいが、環境に関する内容が少なく、いわゆるネイチャーポジティブが見えてこない。工事や災害が起きた後に川がどう変化しているのかと関連して、生物もどのように変化しているかを検討していただきたい。

【委員】

自然環境の取組に関する内容がない。グリーンインフラの取組は重要に感じたため、流域治水プロジェクトのなかで進めていただきたい。

【委員】

河川整備計画のなかで漁業を維持するための環境の視点を入れていただきたい。

【委員長】

今回の点検では治水に偏った内容が多かったため、今年の渇水に関する説明が不足していると感じた。新たな視点として、「流域治水」が「流域総合水管理」へフェーズが変わったことや、今後住民へのご説明を考えると、渇水に関する説明はないといけないと感じたため、次回委員会に向けて検討いただきたい。

<点検結果>

【委員長】 P.39

「現計画に基づき、河川整備を実施する」ということと、「気候変動に伴う河川整備基本方針、河川整備計画の見直しに関する検討」に入っていくことでよろしいか。

- ・委員からの異議なし。

(3) 今後の予定

- ・委員からの意見なし。

以 上